

# 平成23年度「調査研究報告会」 開催報告

当センターでは、至近に実施した調査研究の成果について、会員企業・団体の方々をはじめ関係する皆様方に広くタイムリーご紹介させていただくため、毎年、調査研究報告会を開催しております。

今年は、7月27日にホテルサンルート米沢で、前年度に実施した産業分野の調査研究について開催しました。

当日は、企業、大学、行政等から60名の参加者があり、熱心に聴講していました。

なお、講師が講演で使用した資料については、当センターのホームページ上に掲載しておりますのでご参照ください。

## 1. 開催日時

平成23年7月27日(水)13:30～16:00

## 2. 場所

ホテルサンルート米沢 4階「吾妻」の間  
(山形県米沢市門東町3-3-1)



調査研究報告会の様子

## 3. プログラム

報告会の調査研究テーマは、下記の3テーマ。

- ①「東北地域における組込みシステム産業の振興方策に関する調査」
- ②「低炭素社会構築に伴う東北地方電子・デバイス関連産業のビジネスチャンスに関する調査」
- ③「東北地域における電池及び関連産業の発展方策に関する調査研究」

発表順のテーマ・講師名は下記の通り。

- ・テーマ①の背景  
（財）東北活性化研究センター  
調査研究部課長 佐藤健二
- ・テーマ①の概要  
（社）組込みシステム技術協会  
専務理事 門田浩氏
- ・テーマ①及びテーマ②の調査実施にあたって  
東北大学大学院経済学研究科  
教授 西澤昭夫氏
- ・テーマ②の概要  
（財）東北活性化研究センター  
調査研究部部長 紀 芳憲
- ・テーマ③の概要  
三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)  
環境・エネルギー部  
主任研究員 清水孝太郎氏

## 4. 概要

はじめに当センター調査研究部の佐藤から、「東北地域における組込みシステム産業の振興方策に関する調査」の背景について説明後、調査委員長の門田浩氏から、東北地域の組込みシステム産業の現状及び課題、振興方策などに関するお話をいただきました。特に同産業を成長させるには、企業の経営力強化に資する情報提供、マッチング事業の拡充、地域ブランディングの実施などの支援施策が、非常に重要であると述べました。また、調査に当たって設置された委員会から、東北地域の組込みシステム企業経営者への提言として、経営方針の樹立、ポジショニング、人材育成への投資の必要性・重要性が指摘されたことが紹介されました。



門田 浩 氏

電子・デバイス関連産業と電池関連産業の二つの調査委員会の委員長を務めた西澤昭夫氏からは、東北の特徴を活かした発展戦略の形成が重要であるとの問題意識を委員会の場で共有しながら調査を実施したことの報告がありました。具体的には、東北は全国の動向と異なり、GDPに占める製造業のウェイトが高まっており、モノ作りで雇用と所得を増やす戦略を描くことができる可能性がある。そこで、電子・デバイス関連産業と電池関連産業を高付加価値型

のモノ作り産業として集積を図るという視点で調査研究を実施すべきという問題意識です。



西澤 昭夫 氏

「低炭素社会構築に伴う東北地方電子・デバイス関連産業のビジネスチャンス」については、本件調査を企画した紀からテーマ選定の背景後、調査結果の概要報告がありました。パワー半導体及びLED照明などについてサプライチェーンも含めた産業動向とそれを踏まえた東北地域の事業機会などです。そこでは、地域企業にも、パワー半導体では回路基盤やノイズフィルターなど関連部材分野、さらにLED照明では関連部材分野や完成品製造にも事業機会があるなどの説明がなされました。

「東北地域における電池及び関連産業の発展方策に関する調査研究」で、清水孝太郎氏は、東北地域の電池産業には、三つの点で、かなり強みがあるのではないかと述べました。一点目はこの度の東日本大震災による被災地としての新たな社会インフラ整備ニーズの発生(スマートシティ等)、二点目は東北地域への自動車産業進出による自動車用途の電池需要への期待、そして、三点目は電池産業の競争力の源泉はセルの材料と一対の組込みソフトウェアによるところが大きい、組込みシステム産業の今後の発展が東北地域では期待されているということです。